

1. 日米株式と円/ドルの推移



(注)チャートは過去1年

	単位	2012/12/28	2013/10/31	2013/11/29	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	10,395.18	14,327.94	15,661.87	15,942.60	2013/5/23	8,135.79	2011/11/25
NYダウ	ドル	12,938.11	15,545.75	16,086.41	16,174.51	2013/11/29	10,404.49	2011/10/4
円/ドル	円	85.96	98.36	102.44	103.74	2013/5/22	75.35	2011/10/31

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

3週続伸、日経平均は終値ベースで5月22日以来となる年初来高値更新。

先週の日本株市場は、週間ベースで日経平均が+280.15円 (+1.82%)、TOPIXが+10.09ポイント (+0.81%)と3週続伸となり、日経平均は終値ベースで5月22日以来となる年初来高値を更新しました。業種別(東証33業種)にみると、海運業、精密機器、電気機器など23業種が上昇する一方、食料品、空運業、陸運業など10業種が下落しました。週明け25日の日本株市場は、先々週末の欧米株市場が堅調に推移したことや主要通貨に対して円安が進んだことを受けて、上昇して始まった後、終日高値圏で推移しました。その後週中にかけては、円安の進行が一服したことや短期的な急上昇に対する警戒感などから、一旦売り圧力に押される展開となりました。しかし27日夜、市場予想を上回る米経済指標の発表等を背景に円安ドル高が進み、円/ドルが約6ヵ月振りに102円台にのせたことなどを受けて、翌28日の日本株市場は、大きく上昇して始まった後、終日堅調に推移し、日経平均は終値ベースで年初来高値更新となる15,727.12円で引けました。週末29日は、前日の米国株市場が感謝祭で休場となり材料に乏しい中、一時月末のポジション調整等の売り圧力により急落する場面がみられたものの、その後は徐々に持ち直す展開となり、ほぼ前日の水準まで戻して引けました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	前回
12月2日	Mon	日本	設備投資(前年比)	7-9月期 0.0%
		米国	ISM製造業景況指数	11月 56.4
12月4日	Wed	米国	ADP雇用統計	11月 130千人
			貿易収支	10月 -428億ドル
			ISM非製造業景況指数(総合)	11月 55.4
			ページブック(地区連銀経済報告)	
12月5日	Thu	米国	製造業受注指数	10月 1.7%
12月6日	Fri	日本	景気先行CI指数	10月 109.2
			景気一致CI指数	10月 108.4
		米国	非農業部門雇用者数変化	11月 204千人
			失業率	11月 7.3%
			ミシガン大学消費者信頼感指数	12月 75.1

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

~ 15,000円台後半を中心に、値動きの大きい展開を想定 ~

今週の日本株市場は、米国の重要な経済指標や日米の中央銀行総裁の講演、それらを受けた為替相場の動きを睨みながら、15,000円台後半を中心に比較的値動きの大きい展開を予想しています。基本観としては、海外投資家の先物買い等を主な原動力に日経平均は先週までの3週間で1,600円近く上昇し、25日移動平均乖離も+5.7%とテクニカル的には過熱感が出てきていることから、買いポジションの解消や国内勢の利食い売りに押される展開を想定していますが、今週も仕掛かけの買いが継続するようであれば、日経平均オプション12月限の権利行使価格16,000円のコール(買う権利)が5万枚弱も積み上がっていることから、取引時間中の年初来高値である15,942円を上回る可能性もあるとみています。経済指標では、米国で2日に発表されるISM製造業景況指数、4日のADP雇用統計、ISM非製造業景況指数、ページブック、6日の雇用統計が重要と考えています。